

次世代金融勉強会(第7回)議事要旨

開催日: 2023年5月17日
開催方式: ハイブリッド開催

プレゼンターから資料に基づいて説明が行われた後、主にイーサリアムの仕組みや、性質に応じた単価の考え方、NFTの価値などに関し議論が行われた。参加者からの主な意見等は以下のとおり。

- ・ イーサリアムのガス代の水準感や価格決定メカニズムはどのような状況か。また支払われたガス代はどのように分配されるのか。
- ・ 現在は数百～数千円程度であり、結果として少額の移転は成立しない状況。ETH建ての価格決定メカニズムはロンドンハードフォーク以降自動化されており、ブロックのサイズに応じて基準値を設け、ガス代を上げ下げする仕組みとなっている。また支払われた基本料金はバーン(焼却)されるが、優先料金(チップ)はブロックを提案したバリデータ(検証者)に支払われる。バーンされるのは、有力なバリデータによる価格操作の可能性を排除すると共にイーサでの支払いを実質強制するためであるが、流通量を減らすことで市場価値を保てるとの考えもあるようだ。
- ・ メタバースは所有や希少性は相いれないということから、所有からシェアそしてサブスクへの変遷する世の流れとも一致していると感じた。希少性に依拠せず価値がつくという意味では、音楽とも類似性があるのではないか。
- ・ 音楽は相談をうけることも多く大事な分野。音楽の場合はよほどポピュラーな人でない限り日本音楽著作権協会からの支払いは成り立たず、音楽自体の楽曲使用料よりも、興行・物販で回収するケースが多いようだ。一方マイクロペイメント(1円未満などの少額の単価に基づく支払)については、音楽は同じ客が何度も聴くことが重要な中、それを抑制する効果を有するため、音楽に向けた仕組みとは言えない。一方サブスクリプションは、あまり聴かない人からたくさん聴く人への暗黙の贈与と捉えることも可能。
- ・ NFT自体ではなく、それに紐づけられているものに価値があるとすると、現在のNFTブームは危険な面もあるようにも思えるがいかがか。
- ・ おっしゃる通りではないか。NFT自体にもし価値があるとすると、コレクターズアイテムなどが考えられるが、これとて本物かどうか発行元が証明するから成り立つものであろう。

以上